



北川 克則 議員
(令和新風加西)

選ばれる公共交通を目指して



問 なっぴ〜号の収支状況は。

答 令和6年度の収支は、運行にかかる費用が5,022万円に対し、収入は運賃収入が282万円、国土交通省による地域の交通確保を目的とした赤字路線に対する運行経費の補助が633万円であり、約4,100万円の赤字となっています。

問 なっぴ〜号の利用者数は。

答 令和6年度の年間利用者数は22,324人で、令和5年度と比較して538人の減少となっています。

います。路線別では、主に北条地区を循環している市街地線の中富線が9,954人、福祉会館線が491人です。北条地区を起終点として市郊外に接続する国正線が2,744人、九会線が4,196人、フラワーセンター線が3,668人、soraかさい線が1,271人です。

問 コミュニティバスの今後の取組は。

答 利用の促進を継続しながら、各路線の便ごとの利用状況を分析し、使いやすい路線となるよう、曜日や時間帯ごとの利用実態に応じた最適な運行ダイヤやルートについて、運行事業者と連携して検討し、収支改善に向けて見直しを図ります。

問 北条鉄道の収支状況は。

答 令和3年度は3,173万円の赤字、令和4年度は2,181

万円の赤字、令和5年度は2,110万円の赤字決算でした。令和6年度は、市内高校生の利用が増えたことにより通学定期が増加し、年間輸送人員は過去最高を更新して39万2,000人となりましたが、長引く物価高や人件費の高騰により費用が増加したため、令和5年度を上回る3,200万円の赤字となりました。

要望 地域公共交通に対する固定概念を捨て、バス運行からの抜本的な変革について検討していただきたい。また、主要な結節点である中富口バス停の早期整備をお願いしたい。

■その他の質問項目

- ・加西市総合運動防災公園基本構想計画について
- ・加西市グローバルセンターの新規の役割について



丸岡 弘満 議員
(改革未来・自民の風)
・加西市民の会

外国人の税金滞納問題について



問 加西市に住む外国人は年々増加し、令和6年度末で1,675人、市の全人口に対する割合は約4%となっている。今や外国人労働者なくしては市の社会経済は成り立たない状況であるが、外国人労働者も日本人と同じく法律に基づいて税金を納める義務がある。外国人滞納者数と金額は。

答 令和6年度末時点の外国人の滞納状況は、住民税（現年分）が88件で約440万円、国民健康保険税（現年分）は25件で約118万円となっています。

問 住民税は1月1日時点で日本に住所があり、前年に一定以上の収入があれば支払い義務が生じる。前年の所得に応じて額が決まり、6月から市が徴収するが、それまでに外国人が帰国してしまうと徴収できない。滞納額は年々増え、市が税金を取り損ねている現状に市民は不満に思っている。外国人滞納者に対する対策は。

答 帰国せず日本に住む外国人については、日本人と同じように資産調査を行い、督促や徴収に努めています。

問 外国人労働者に対して、帰国の際に未徴収分をまとめて支払う一括徴収の利用や本人に代わって支払う納税管理制度があり、市内にはこの制度を利用している雇主、法人企業もある。効果的な徴収対策として、受入先の企

業において日本の税制を正確に分かりやすく情報提供することや、グローバルセンターでのサポートをお願いしたい。

答 受入企業、技能実習生をサポートする監理団体、特定技能者を支援する特定技能登録支援機関等と協力しながらグローバルセンターが関わり、担当部署と連携して制度を説明していきたいと考えます。もちろん外国語でも対応していきます。（市長）議員が指摘されたとおり、1年遅れの課税が問題の根底をなしています。税の負担がしっかりしてこそ本来の多文化共生が実現できると考えます。国・県・市で方策を考えていくべき問題として協議していきたいと思います。